

アクティブラジニアの健康づくり活動継続と地域活性化

地域: 那須烏山市

22班

コミュニティデザイン学科 手塚慶樹 宮坂真耶

パートナー: きずなサービスセンター

建築都市デザイン学科 山崎有華

社会基盤デザイン学科 斎藤舜介 野原魁人

背景

那須烏山市は、栃木県の東部に位置し、人口約2万6000人程の市である。ユネスコ文化遺産登録、国指定重要無形文化財の「烏山の山上げ行事」や龍門の滝など、歴史、文化・観光資源が豊富な地域である。那須烏山市は60歳以上の割合が40%以上と非常に高く、地域活性化による「元気なまちづくり」が差し迫った重要な課題であり、そのためにはアクティブラジニアを重点世代とした地域住民の積極的な社会参加の仕組みが必要となる。

目的

市の課題として挙げた地域活性化による「元気なまちづくり」のための方法として、【イベント開催による外部からの交流人口の増加】といったことに目が向けられることが多いが、私達は、「その地域にくらす人々の日常的な元気なくらし」が重要と考えている。那須烏山市同様の高齢化の進む地域においては、その中でも特に【アクティブラジニア】の【より元気で楽しいくらし】が大切なことと捉えている。そこに貢献するためには、何が必要なのかを考えるために、人口の特徴、地域の特徴、人の行動から地域の現状を把握し、さらにアクティブラジニアを増やすための仕組みやイベントについて提案することを目的とする。

前段階の調査

アクティブラジニアが多く、コミュニティ活動が活発な自治会の現状を調査するために、藤田自治会の自治会長を対象としてインタビューを行った。本自治会は、昨年自治総合センターのコミュニティ助成事業を活用して、公民館を建設したり、年間で多くのイベントを行っていたりと住民の活動が盛んである。

インタビューの結果、藤田自治会は昔から受け継がれているイベントなどを通じて結束力を高めていることが分かった。今後企画する自治会イベントには単発で終わらず、受け継がれていく工夫が重要であると判明した。しかし、地域の繋がりが希薄化している中で、藤田自治会は数少ない成功事例であることから、他の意見を取り入れるため、アンケート調査を行う。



方法

- ①地域の高齢者に外出の頻度、行き先、移動手段、外出の弊害になっていることなど外出に関する調査を行う。
- ②参加してみたいと思う自治会イベントについても調査を行う。

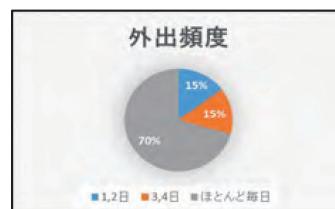
方法…調査票

対象…60歳以上の高齢者

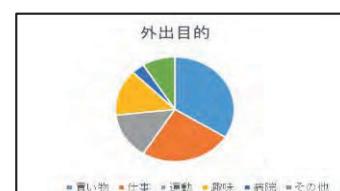
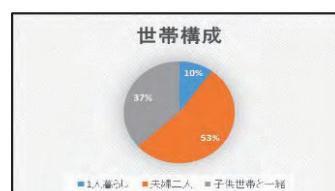
場所…那須烏山マラソン大会

分析結果

12月1日に行われた、那須烏山市のマラソン大会に訪れていた60歳以上の方39名を対象に、外出に関するアンケート調査を行った。聞き取り形式で行い、中には60歳未満(40代、50代)の方も含まれた。



マラソン大会など地域のイベントに来る方の特徴として、家族と一緒に生活をしており、普段の外出頻度も比較的多い人がイベントに足を運びやすい傾向があることがわかった。



また、参加者として来ている方と応援をしに来ている方の世帯構成や外出頻度に差はあまり見られなかった。

「外出の弊害となっていることはありますか」という質問に対して、ほとんどの方が特になしと答えた。また、移動手段に関する質問ではほとんどの方が車を使用していると答えた。このことから、車がないと生活が成り立たない方がほとんどであるということがわかる。外出目的に関する質問(複数回答可)では、半分以上の方が仕事と買い物と答え、イベント参加者でも自分の趣味のために出かけるという人はあまり多く見られなかった。

提案

・自治会レベルでのイベント

調査により、日頃自分からは積極的にイベントへ参加しないが、家族(子どもや孫)に連れられて参加するという「**消極的参加者**」がいることが明らかになった。よって、「**多世代交流**」の視点をもとにした自治会レベルでのイベント企画を提案する。高齢者のみをターゲットにするのではなく、3世代をターゲットにすることにより、「**消極的参加者**」の層をイベントに呼び込むことがねらいである。さらに、イベントへの参加をきっかけにアクティブラジニアになってもらうことも期待される。

【イベント企画案】

そば打ち体験

内容: 那須烏山市の高齢者は自宅でそばを作れる人が多い。高齢世代から親・子ども世代へそば打ちを教える。出来上がったそばを参加者全員で食べる。お土産用のそばも作り、持ち帰ってもらう。

目的: 3世代で交流する。高齢者の活躍の場を作る。

人数: 15人程度